

平成26年度4月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成26年4月4日（金）午前11時～11時40分

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ11社

会見内容

1. 話題提供（4項目）

1. 釧路市地域おこし協力隊の就任について

■ 4月7日から「釧路市地域おこし協力隊・長期滞在事業支援員」として「三羽（みわ）健太郎さん」が就任します。

■ 地域おこし協力隊は、平成21年度から総務省が実施している制度で、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、主に3大都市圏や政令指定都市などからおおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体の委嘱を受け、地域で生活し、農林漁業の応援、水源保全・監視活動、住民の生活支援などの各種の地域協力活動に従事する方を募り、地方の活性化をはかる制度です。

■ 長期滞在事業支援員の業務内容はくしろ長期滞在ビジネス研究会事務局の業務に従事していただき、長期滞在の方々のサポートやフォローを担う専任体制を構築することで、長期滞在地の先進地として受入環境の整備をさらに一歩踏み込んで進めていきたいと考えています。

■ 4月7日（月曜日）午後1時から市長応接室で委嘱状の交付を行います。

2. IR関連視察調査について

■ 世界水準の観光地づくりを目指している阿寒湖温泉地区を統合型リゾート、いわゆるIRの誘致の対象として、北海道に対し、IRに関する情報提供や国への制度創設の働きかけなどの要望活動を展開してきました。

■ このたび、IRの誘致に関して更なる調査を進めるために、調査視察に参加予定予定です。日程は、下記のとおり。

- ・ 視察日程：4月23日（水）～26日（土）
- ・ 調査団：ひがし北海道統合観光リゾート誘致協議会会長、釧路市議会議員、釧路市長、北海道知事、小樽市、苫小牧市 など
- ・ 訪問先：韓国の済州島（チェジュ島）、江原道（カンウォンド）

- ・視察日程：5月7日（水）～10日（土）
- ・調査団：NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構主催、商工会議所、釧路市
- ・訪問先：ドイツのバーデン・バーデン

3. 平成26年度クルーズ旅客船の寄港予定について

- 今年度最初の旅客船として、4月19日（土）にフォーレンダム（61,214トン、237.91メートル、定員1,432人）が耐震・旅客船ターミナルに入港します。
- 4月から10月まで、延べ25隻が釧路に寄港予定で、乗客と乗務員を合わせると最大7万人近くが釧路を訪れる見通しになっています。
- 「釧路港おもてなし倶楽部」や「釧路国際交流ボランティアの会」と連携を図り、商店や飲食店、旅行会社などへの情報提供を推進します。
- 今後、商業者の皆さんと連携し、乗船客向けのオリジナル商品や商店街イベント、特典情報などを取りまとめ、釧路での滞在時間の充実を図ることで、再訪につなげていく取り組みを充実する予定です。

4. 中央消防署 愛国支署・文苑分団について

- 4月1日から旧愛国支署と新橋支署を統合し、新しい「愛国支署」と併設の「文苑分団」が稼働しています。
- 本施設は、将来の人口動態を見据えた中で、効率的な消防体制の構築、ならびに地域防災力の向上を図るために整備を進めてきたものです。
- 文苑分団は、分団長以下17名で新たに発足。美原、芦野、文苑などの新興住宅街を管轄とする市内18分団の中で一番新しい分団です。
- また、大規模な津波発生時には、屋上を開放し、地域住民の一時避難場所として活用予定です。
- 平時から常に大規模災害などの非常時に備えた、災害に強いまちづくりに取り組み、政策プランの実践ビジョンの一つである「安心して暮らせる都市づくり」を進めてまいります。

【新愛国支署・文苑分団の概要】

- ・住所 文苑4丁目1番1号
- ・構造 鉄筋コンクリート造（4階建）
- ・敷地面積 1,382.69 m²
- ・建築面積 520.93 m²
- ・延べ床面積 1,287.64 m²
- ・建築工事費（外構含む） 4億6,798万5千円
- ・配置職員 33名
- ・配置車両 4名（水槽付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付大型水槽車、消防ポンプ自動車（文苑分団車）、高規格救急自動車）

2. 質疑要旨

（質問）

- ・ 地域おこし協力隊の方のプロフィール等を教えてください。
また、どういう経緯でどのように選ばれたのかも教えてください。

（市長）

- ・ 三羽健太郎さんは、現在、札幌にお住まいの26歳です。小売店で販売や売り場管理に従事し、アウトドアガイドに興味があり、カナダへのホームステイ経験後、道東の友人を訪ねて釧路を訪れた際に町並みや周辺地域の自然の豊かさに触れ、釧路に魅了されたことがきっかけで応募いただきました。
- ・ 地域おこし協力隊は総務省の制度なので、制度にのっとり、要項を作成しました。募集期間を2月3日から28日までとし、お問い合わせを11件、応募を4件いただきました。3月20日に面接を行い、24日に選考決定しました。

（質問）

- ・ 長期滞在事業支援員とのことですが、くしろ長期滞在ビジネス研究会はこれまでもあったのか、事務局はどこにあるのか教えてください。

（市長）

- ・ これまでも研究会はありまして、市役所の市民協働推進課内に事務局があります。

（質問）

- ・ 地域おこし協力隊は、総務省に前からある制度ですが、このタイミングで事業を募集した理由と、具体的にこの方の活用をどのように考えているのか、お聞かせください。

(市長)

- ・ 夏の「涼しい釧路」については、くしろ長期滞在ビジネス研究会とも一緒に取り組みを進め、おかげさまで3年連続、上半期、全道1位になっています。合わせて、冬の「花粉ゼロの快適空間」の取り組みも進めており、夏に滞在いただいた方が冬にお越しいただくこともあります。秋についても夕日などをPRする取り組みを進めていますが、今後もより一層の取り組みを行う予定です。特に猛暑の地域からの集客については、中部・セントレア便の再開もありますし、釧路以外の地域の方の目線から、どのように進めていくのかについて、検討していきたいということで、地域おこし協力隊の取り組みを行うこととしました。

具体的には、事務局としての来釧者へのサポート（空き部屋の紹介等）やくしろ長期滞在ビジネス研究会のホームページ上のブログによって、地域資源の情報を発信してもらうことを考えています。

(質問)

- ・ IRについてですが、具体的にイメージが出来上がっているのか、お聞かせください。

(市長)

- ・ 韓国については、北海道主催で「北海道にIRを」という大きな枠組みの中で道内他都市の方と視察に行きます。一方、ドイツのバーデン・バーデンは、歴史ある、温泉を備えた自然と共存している、質の高い社交の場としてのIRですので、阿寒湖温泉の皆さんと地域にふさわしい姿を探りながら、阿寒を世界有数の観光地として発信できるように努力してまいりたいと考えています。

カジノについても、実際に世界の140カ国以上にカジノがありますし、ローカルカジノと銘打っているところもあります。そのような状況の中、国立公園内にあり、また、東北道の観光の中心となる阿寒湖温泉地域にどのようなものがふさわしいのか、しっかりと考えていきたいと思っています。東北道全体が外国からの観光客も増えていますし、豊かな自然や景観を生かす、自然と調和したIR機能を持つことが東北道全体の観光の底上げにつながると思っています。

(質問)

- ・ 韓国の視察に行く、市のメンバーを教えてください。費用についてもわかれば教えてください。

(市長)

- ・ 市からは私と産業振興部長の2名。そして、ひがし北海道統合観光リゾート誘致協議会からは、栗林会長、釧路市議会からは5名、合わせて8名の予定です。費用は、まだ正式には算定していませんが、10数万円になると思います。

(質問)

- ・ 視察の成果については、報告があるのか、お聞かせください。

(観光振興監)

- ・ 北海道が主催ですので、北海道の方で何らかの形で報告があると思います。

(質問)

- ・ クルーズ船についてですが、ダイヤモンド・プリンセスが西港に入るというのは、耐震岸壁には入らないということでもいいのか、教えてください。

(市長)

- ・ その通りです。耐震岸壁は深さが9メートルなのですが、世界的に旅客船の大型化が進んでおり、耐震岸壁に入港するには、ある程度の限界があります。

(質問)

- ・ では、その耐震岸壁を11メートルまで掘るという考えがあるのかお聞かせください。

(市長)

- ・ ご案内のとおり、耐震岸壁の下は岩盤になっています。さらに掘るには、壮大な経費が掛かり、現実的には厳しいと思っています。西港は、最大15メートルの深さがあるので、大型の客船は西港に誘導するという整理になります。

(質問)

- ・ 日本とオーストラリアのEPA（経済連携協定）交渉の首脳会談がまとまるかどうか、注目されています。仮定の話ですが、関税がかかるのはある程度避けられないのではないかと思います。そうなると、地域経済への影響をどのように考えているのか、お聞かせください。

(市長)

- ・ TPPの日米関係では、1兆2～3千億の影響があると北海道の算定がありました。北海道の方でも、道民合意を得た上で、さらに国会決議を踏まえて進めて欲しいとのスタンスですので、同様の考えでいます。

(質問)

- ・ 南極海の捕鯨について司法判断が出て、日本政府も受け入れるとの報道がありました。直接的には、まだ北西太平洋の方の話ではありませんが、改めて交渉結果、そして今後、何らかの行動をすることを考えているのか、お聞かせください。

(市長)

- 本当に厳しい結果が出たと受け止めています。その中で、さっそく4月1日に地元の国会議員のところに、鯨類捕獲調査の継続についての要望書を出させていただきました。釧路は、鯨食文化も地域に根付いており、クジラによるまちづくりも行ってきた経過もありますし、海域は違いますが、影響があっては困るということで、すぐに要望をさせていただいたところです。国への要望につきましては、4月15日に東京でクジラに関するイベントがある予定となっていて、そのイベントに参加する予定です。その時に、国会議員の方や関係自治体の方々なども集まりますので、今後の動きなどについても検討していきたいと思っています。

(質問)

- 道内でも網走や函館も捕鯨基地として、憂慮していると思いますが、連携をするつもりがあるか、お聞かせください。

(市長)

- すでに、道内はもとより、国内各地の捕鯨基地の各市との連携は取っていますので、その中で、一緒に進めていくことになろうかと思っています。